

小学校PTAが縮減する中、育成会が役員不足など困難を抱えながら地域行事を担い、「行政・学校・地域をつなぐ」実情を報告。

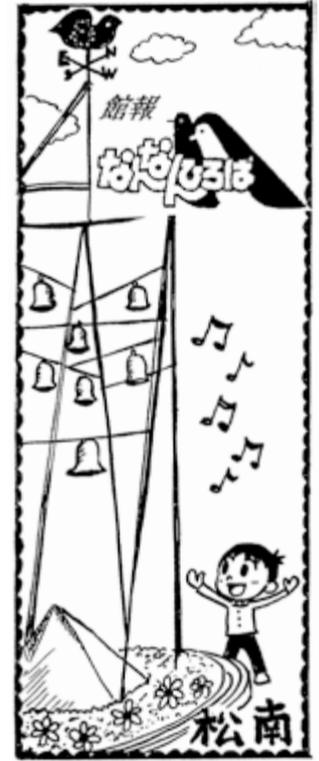
また南松本二丁目では、ママ友の「脱町会」会話に危機を感じ、子どもと子育て世代との交流を夏祭りや町会清掃などに生かし、町会改革をしている事例を紹介。コミュニティースクールと連携した「生活応援隊こだま」の活動も学びの多い事例でした。

地域防災の事例報告が2件。4人の信明中学生が探求学習で松南地区の防災対策の現状をチェックし、疑問や要望を発表。「期限切れ備品」の指摘には、市長も即応しました。



また試行錯誤ながら、南松本保育園を一時集合場所に決めるなど防災システム作りを急ぐ南松本一丁目の事例も紹介されました。

**ジモトで座談会(2月28日)**  
**「みんなで紡ぐ安心の輪 つなぐ・守る・育てる松南」**



市長との懇談、それ自体は良い事で、「ジモト」の声を聴く良い企画と思います。訴える側に不慣れさはありましたが、いくつもの課題を抱えながら地域づくりに励む団体や町会、また防災を自分事とした中学生の発表は、地域の良い声でした。

市長も家族の多様化という背景や防災対応の現実を取り上げ、「町会員でなかろうと見捨てない」という地域の声に共鳴されました。

貴重な座談会が「ボヤッ」と「形骸化した」企画にならないことを切に願います。  
 (白澤 幸男)

2月21日、松本市芳野に松南地区内外から約70人が参加し、「出川南遺跡第30次発掘調査現地説明会」が開催されました。

発掘調査は(仮称)松本市役所保健所庁舎建設予定地で令和7年8月から令和8年8月まで東西に分けて実施する予定です。

■調査の成果は  
 現イオン南松本店開設に伴う出川南遺跡調査に続く、今回の調査では、住居跡12軒、土坑6基、溝1条など多数の

**「古代に想いをよせて」**  
**出川南遺跡第30次**  
**発掘調査現地説明会**



遺構や遺物が発見されています。この発見により古墳時代後期と平安時代前期には集落が営まれていました。現場での状況を確認しながら、非常に興味深い説明を聞くことができました。

■今後の展望  
 今回の説明を聞くことにより驚きと古代への想いが深まりました。特に、発掘した住居跡から焼土や炭のかたまりが見つかることにより、焼失した住居跡と判明するなど、とても素人ではわからないことばかりです。遺構や遺物を見て、当時の時代へタイムスリップしたような感覚になりました。3月から始まる東側の発掘に期待が高まるばかりです。  
 (川上 正彦)

### 安曇野の郷土文化に触れて

(2月26日視察研修)

前日の雨に洗われて、青空に映える北アルプスを見ながら安曇野アートラインを巡る、豊科郷土博物館と3カ所の美術館を見学してきました。

いずれの美術館も安曇野の山岳、田園、水に融合した建築で、館内の作品からは安曇野への郷土愛が感じられました。漆と金箔の工芸の文化勲章を受賞した高橋節郎美術館では繊細に描かれた金の線の表現に感動しました。

研修を通し、身近に優れた芸術作品に触れる場所が数多くあることを認識しました。忙しい時間を過ごす皆さんも是非訪れてみてください。

(佐々木恒男)



安曇野高橋節郎記念美術館にて



豊科郷土博物館にて

今回、安曇野市の美術館と博物館をまわる視察研修会に初めて参加しました。

「TRIAD IDAK AN」「豊科郷土博物館」「高橋節郎記念美術館」「田淵行男記念館」を見学して、更においしい蕎麦をいただき、わさび農場の散策と天候にも恵まれ早春の安曇野を十分に満喫できました。

入館前に館長さん、学芸員さんの説明があり作者の気持ちを理解して鑑賞することができました。

高橋節郎さんの鍮金の作品が素晴らしく、是非再訪してみたいと思いました。有意義で素敵な一日でした。

(下條今朝男)

## 松南地区のできごと

2/20 ふれあい健康教室



▶呼吸を整える筋力トレーニング

2月～3月冬の文化祭



3/1 軽スポーツのつどい



▶楽しく運動ができました



▶日頃の成果発表

### 「進化する介護施設」

## コラム松南

かつての介護施設には「汚い、臭い」という暗いイメージがあり、親を預けることに罪悪感を抱く人も多かったことと思います。私自身、つい最近、一人暮らしだった父親を人工透析開始とともに施設へ預けることになりました。「孤独を強いるのではないか」という葛藤がありました。しかし、見学の段階から驚きました。建物はホテルのように清潔で、職員の対応にも心のゆとりがあるようでした。何より、自宅では一日中テレビを眺めていた父親が、入居後には会話に活気が戻ったことでした。今の施設は単なる「預ける場所」ではなく、個人の尊厳を守る新しい「住まい」と言えます。プロのケアと同世代との交流により、父親の表情はずっと明るくなりました。かつての閉塞感は過去のものとなりました。

父親の笑顔を見て、この施設は間違いではなかったと確信しています。

(伊勢暁美)

